

一次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(答えに字数指定のある問題では句読点や記号も一字と数えます。)

われわれのまわりにあるすべての事象、現実<sup>①</sup>は、自然と人為の二つに分れる。山があり、川が流れるのは、人為の加わっていない自然である。山に植林し、川に護岸工事をホドコしたりすれば、その部分は人為であるが、山そのもの、川そのものは自然である。

この山川を描いた絵があれば、どんなにそっくりに描かれていても、これは人為である。美しいという感情をよびおこされたり、それを目的とした活動であれば、この人為のことをアート(芸術)と言う。ただし、アートは芸術にかぎらない。およそ人為の加わったものならすべてこの名で呼ばれておかしくないのである。

ことばそのものが人間のつくり上げたものである。自然について語られたことばは、もちろん人為になる。自然を直接に表現したものが、第一次の情報になる。

「○○山は南側の斜面が砂走になっている」というようなことばは第一次情報である。これに対して、「この地方の山は△△火山帯に属している」といった表現は、第二次情報である。第一次情報をふまえて、より高度の抽象を行なっている。<sup>④</sup>メタ情報である。A これをもとにして抽象化をすすめれば、第三次情報ができる。<sup>⑤</sup>メタ・メタ情報というわけである。

このようにして、人為としての情報は高次の抽象化へ昇華して行く。

思考、知識についても、このメタ化の過程が認められる。もっとも具体的、即物的な思考、知識は第一次的である。その同種を集め、整理し、相互に関連づけると、第二次的な思考、知識が生れる。<sup>⑤</sup>これをさらに同種のもの間で昇華させると、第三次的情報ができるようになる。

第一次的な情報の代表に、ニュースがある。これは事件や事実を伝える点でキョウミがあるけれども、それがどのような意味をもつか、その限りでは、はっきりしない。生々しいニュースというのは、第一次情報の特性にほかならない。

新聞の社会面には主としてこの第一次情報が並んでいる。そのもつ意味もはっきりしないかわり、解釈をしなくても、それが伝えようとしていることはわかる。理解が容易である。

同じ新聞でも、社説は、そういう多くの第一次情報のニュースをキソ<sup>⑦</sup>に、整理を加えたもので、メタ・ニュース、B、第二次情報である。社会面記事をキョウミをもって読む人も、社説はまるで勝手が違う。社説の読者がすくない。おもしろくないというのは、ほかの記事の多くが第一次情報であるのに、これがメタ情報で、列の読み方を必要とすることを心得ないからである。

第一次情報を第二次情報に変える方法として、たとえば、ダイジェスト、要約がある。細部をハブ<sup>⑩</sup>いて、要点をまとめる。これは昇華よりもC、圧縮というべきかもしれないが、すでに情報となっているものに、さらに人為を加えるという点では、第二次情報である。

(中略)

いわゆる論文は、一次的情報であってはならない。第二次的情報でもなお昇華度が不足である。第三次的情報であることを必要とする。書くのにも高度の抽象性が求められるし、読んで理解するのにも専門的訓練がなくてはならない。

われわれが自分で考えたことがらについても、この第一次からの段階的抽象化が考えられる。<sup>⑧</sup>ダンペン的なひとつひとつの着想は、いわば、第一次の情報である。そのままでは、それほど大きな意味をもたない。これをほかの思考と関連させ、まとめて、第二次の情報にする。

このときに、<sup>⑨</sup>酸酔、混合、アナロジーなどの方法はたらくのである。これについてはすでにのべた。思考の整理というのは、低次の思考を、抽象のハシゴを登って、メタ化して行くことにほかならない。第一次的思考を、その次元にとどめておいたのでは、いつまでたっても、たんなる思い付きでしかないことになる。

整理、抽象化を高めることによって、高度の思考となる。普遍性も大きくなる。

「抽象のハシゴをおろろ」と命じたのは、一般意味論である。<sup>⑩</sup>誤解の多いコミュニケーションを救うには、抽象のハシゴをおりて、二次的、三次的情報を一次的情報に還元するのが有効である。D、これが文化の方向とは逆行するのまた事実である。人知の発達は、情報のメタ化と並行してきた。抽象のハシゴを登ることを怖れては社会の発達はあり得ない。

(外山滋比古『思考の整理学』による)

【語注】 注1 社説：新聞や雑誌などで、その出版社の主張や意見として載せる論説。

注2 アナロジー：似ていることを根拠にして、違う物事を推しはかること。

問一 波線部⑦④のカタカナを漢字で答えなさい。

問二 空欄A Dに当てはまる語として最も適当なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。(同じ記号は一度しか使えません。)

ア さらに      イ むしろ      ウ しかし      エ つまり

問三 傍線部①「自然と人為の二つに分れる」とありますが、「人為」の例として適当でないものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 植林した山や、護岸工事をした川      イ 砂走になっている山の南側の斜面  
ウ 自然について人に語られたことば      エ 自然の美しい山や川を描いた芸術

問四 傍線部②「第一次情報」の説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 人間が自然についてことばであらわしたこと。      イ 美しいという感情を呼び起こす表現のこと。  
ウ 具体的かつ直接的な表現や知識や思考のこと。      エ 内容を理解するのに解釈が必要な情報のこと。

問五 傍線部③「第二次情報」とはどのようなものですか。本文中の語句を用いて三十字以内で説明しなさい。

問六 傍線部④「メタ」の意味として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア もう一つの      イ めちゃくちゃな      ウ とても巨大な      エ 超越的な

問七 傍線部⑤「これ」が指す内容を本文中から十字で抜き出なさい。

問八 傍線部⑥「社説の読者がすくない」のはなぜですか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 生々しい事件を伝えるニュースに比べて、圧倒的な臨場感やスリルが足りないから。

イ 自分で自由に考える余地のあるニュースと違い、記者の意図を読む必要があるから。

ウ 事件や事実を伝えているだけで、どのような意味を持つ報道なのかわからないから。

エ 記者の考えによって要約されている記事では、何が起ったのか理解できないから。

問九 次のア～ウの語句について、「第一次的情報」を1、「第二次的情報」を2、「第三次的情報」を3として分類し、それぞれ数字で答えなさい。

ア 研究論文      イ 新聞の社会面      ウ 山川の絵画

問十 傍線部⑦「抽象」の対義語を本文中から二字で抜き出なさい。

問十一 傍線部⑧「誤解の多いコミュニケーション」とありますが、誤解が多いのはなぜですか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 情報が高度に抽象化されていて、解釈が異なる可能性が高くなるから。

イ 言葉の使い方が誤っていることが多くて、正しく伝わらないから。

ウ 情報量が少なくなっていて、内容を正確に理解するのが難しいから。

エ 相手の話をきちんと聞かず、内容を誤って受け取ってしまうから。

問十二 傍線部⑨「抽象のハシゴを登ることを怖れては社会の発達はあり得ない」とはどういうことですか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 抽象化することで様々な具体的情報が整理されてしまい、真実がありのままに伝わらなくなること。

イ 思考を整理してメタ化することを見ると、正確で詳しい情報を世の中に提供できなくなること。

ウ 誤解を恐れて思考の整理を怠ると、社会の発展に寄与するより高度な次元の情報を生み出せないということ。

エ 情報のメタ化によって生まれる難解な情報こそが、社会の発展のためには欠かせないものであるということ。

二次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(答えに字数指定のある問題では句読点や記号も一字と数えます。)

夏のはじめのある日の午後のことでした。

十二、三才になる少年が、九州の中津の町を、胸を張って歩いていました。腰に大小の刀をさしているので、士族の子どもとすぐ分かりますが、古ぼけた風呂敷包みを左の小脇に抱え、小きなとっくりをその手に提げています。①どうやら少年は、町に買いいものに来た帰りのようでした。

町人たちは、さも、不思議なものを見たといわんばかりに、少年の後ろ姿を指差して、ささやき合いました。

「お侍の子が、まっ昼間、Aと、びんぼうどっくりを提げて、買いいものに来るとは、驚いたな。」

「全くだ。近頃は、お侍も、懐具合が良くないと見えて、一升どっくりを提げて買いいに見えるが、はずかしそうにほおかわりをして、しかも、

日の暮れ方とか、夜になってから、買いいにくるというのが、普通だからな。」

「まあ、お侍には、士族としての体面があるからな。それを、あのようにAと……いったい、どこの子どもだろう。」

町人たちが話している、その少年は、Bと照りつける太陽に汗ばんだのか、時折、右手で、額の汗を拭きながら、士族屋敷へ帰っていきま

した。<sup>注2</sup>  
やがて、少年が立ち止まったのは、門こそありますが、古ぼけた、粗末なかやぶき屋根の家でした。

「ただいま、帰りました。」

少年が、玄関から入ると、

「おかえり、諭吉。ごくろうだったね。途中で、知りあいの人に会わずにすんだかね。」

と、お母さんのお順が優しく迎えました。

「ええ、誰にも会いませんでした。でも、誰かに会ったって、私は平気です。自分の金で、ものを買うんですから、少しもはずかしいことはありません。」

「そうとも、そうとも。よくいってくれました。母さんは、その言葉を聞いて、とても嬉しいんだよ。うちが貧乏でも、おまえがいじけないうてくれるというかね。……そうそう、帰って来てすぐで悪いけれど、たんすが開かなくなっただけから、ちよつと直してもらえないかしら。」

「いいですとも。開かなくなっただけなのは、どのたんすですか。」

諭吉の瞳は、急にCと輝き、刀をいつもの所に置くと、たんすのある部屋にかけこむようにして入っていききました。

「このたんすの引き出しなだけだね。」

あとからついてきたお母さんの言うのを聞いて、諭吉は、その引き出しのあちらこちらを調べ始めました。それから、鍵をつっこんで、回してみましたが、なかなか開きません。

「これは、鍵が壊れたんですね。釘<sup>④</sup>でなければ、開かないかもしれません。」  
「そうかい。では、釘を使って、開くようにしておくれ。」  
お母さんは、台所のほうへ去っていききました。

諭吉は、釘を持ってきて、その先を曲げて、鍵穴にさしこんで、あつちに回してみたり、こっちに回してみたり、色々と工夫を凝らしました。顔のあたりを、蚊が四、五匹、うるさく飛んでいるのを手で追いはらいながら、考えこんでいます<sup>⑧</sup>。両足をかわりばんこにあげているのは、蚊にさされないためでもあります<sup>⑨</sup>が、便所に行きたいのを我慢しているためでもあります。それほど、引き出しを開けるのに一生懸命になっていたわけです。

そのうち、ひきだしが **D** と開きました。

(高山穀『福沢諭吉』による)

#### 【語注】

- 注 1 中津…大分県の町  
注 2 士族…侍の家がら  
注 3 一升…1・8リットル  
注 4 体面…世間に対する体裁

問一 二重傍線部②⑤⑧の品詞名を次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。(同じ記号は一度しか使えません。)

ア 動詞    イ 形容詞    ウ 形容動詞    エ 副詞    オ 名詞    カ 助詞    キ 助動詞    ク 連体詞

問二 空欄 **A** **く** **D** に当てはまる言葉として最も適当なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。(同じ記号は一度しか使えません。同じ記号には同じ言葉が入ります。)

ア じりじり    イ どうどう    ウ すっ    エ いきいき

問三 波線部「はずかし」を漢字に改めた時、送り仮名として正しいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 恥ずかし    イ 恥かし    ウ 恥し

問四 傍線部①「いわんばかり」、③「懐具合」、④「粗末」の本文中での意味として最も適当なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

①「いわんばかり」	③「懐具合」	④「粗末」
ア 言うつもりがない	ア 経済状況	ア 気遣いが行き届いている
イ 言うかのように	イ 病の進行	イ 何も気にしない
ウ 言い合うだけで	ウ 体の温かさ	ウ 手入れをしている
エ 言うだけでは足らずに	エ 思いやりの心	エ 上等でない

問五 傍線部②「少年の後ろ姿を指差して」とあるが、なぜ商人たちは、ささやき合っているのですか。その理由として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 腰に大小の刀を差している子どもが怖かったから。  
イ 士族の子どもが昼間に買物しているのが珍しかったから。  
ウ 少年が持っているとっくりが小さかったため、陰口を言っていたから。  
エ 十二、三才の少年が一人で買物をしていて心配であったから。

問六 傍線部⑤「ごくろう」とあるが、このときのお母さんの心情として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア お使いに行った諭吉に対して当たり前だと思いつつ、知り合いに会って嫌な思いをしなかったか心配している。  
イ お使いに行った諭吉に対して当たり前だと思いつつ、知り合いに会って士族としての面子を潰していないか心配している。  
ウ お使いに行った諭吉に対してのねざらひを感じつつ、知り合いに会って嫌な思いをしなかったか心配している。  
エ お使いに行った諭吉に対してのねざらひを感じつつ、知り合いに会って士族としての面子を潰していないか心配している。

問七 傍線部⑥「おまえがいじけないで育ってくれるということ」とあるが、これはどういうことか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 諭吉が買い物途中で知り合いに会っても喜べる性格に育ったこと。  
イ 諭吉が一人で買い物に行っても、無駄遣いせずに帰ってくる素直な性格に育ったこと。  
ウ 諭吉が家計の状況がどうであれ、母の役に立てることを喜ぶ性格に育ったこと。  
エ 諭吉が環境に左右されず、公正な言動を取れる性格に育ったこと。

問八 論吉とお母さんの関係について述べたものとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア お母さんに頼られたので仕方なく、たんすを直そうとしている。  
イ お母さんは壊れたものがあると論吉が喜ぶため、日々壊れているものがないか探している。  
ウ お母さんは論吉なら、たんすでも直せるだろうと信頼している。  
エ お母さんは論吉には雑用をさせるべきだと考えている。

問九 この本文を読んで、先生と六人の生徒が会話をしています。本文から読みとれる論吉の人物像として適当なものを生徒A～Fより三人選び、それぞれアルファベットで答えなさい。

先生…本文は、後にお札にも描かれることになる福沢論吉の少年時代の話です。まだ士族という身分制度があった時代の論吉はどのような人物に読みとれましたか？ それぞれ考えて、話し合ってみましょう。

生徒A…論吉はお母さんに「誰かに会ったって、私は平気です。」と言っていることから、士族であり、正しい行いをしている自分はずかしく思うことは何も無いと考える論理的な人物かと思ったよ。

生徒B…そうかな。少年の論吉は、近頃商人がお待をバカにしていることを知っていて、自分は士族でありながら他の生き方を求めていることとする賢い人物ではないかな。

生徒C…私は、論吉がお母さんからのお願いを喜んで聞いて引き出しを開けようと一生懸命なことから、母への感謝を忘れずに自分にできることを精一杯行うひたむきな人物だと思ったな。

生徒D…なるほど。私は「自分の金で、ものを買うんですから」と「考えこんでいます」から、根拠となることを信じ、実行する人物だという印象を持ったよ。

生徒E…ひきだしを開けるために「便所に行きたいのを我慢」とあるから、達成するためなら手段を選ばない人物なのではないかな。

生徒F…そうかな。私はEさんと同じ部分から、論吉がわざわざ便所に行くのが面倒と感じる、ものぐさな人物だと思ったよ。

三 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。（答えに字数指定のある問題では句読点や記号も一字と数えます。）

これも今は昔、山科の道づらに、四の宮河原といふ所にて、袖くらべといふ商人集る所あり。その辺の下種注2のありける、地蔵菩薩ちざうぼさつを一体造り奉りたりけるを、開眼かいがんもせて櫃はこにうち入れて奥の部屋など思しき所に納め置きて、世の営みに紛れて程経にければ、忘れにける程に、三四年ばかり過ぎにけり。

ある夜、夢に、大路を過ぐる者の声高こゑたかに人呼ぶ声のしければ、「何事ぞ」と聞けば、「地蔵こそ」と、高くこの家の前にていふなれば、奥の方より、「何事ぞ」といふ声なり。明日、天帝釈てんたいしゃくの地蔵会ちざうかいし給ふには参らせ給はぬか」といへば、この小家のうちより、「参らむと思へど、まだ目のあかねば、え参るまじく」といへば、

② C

③ D

④ B

⑤ E

うち驚きて、何のかは夢に見えつるにかと思ひ参らすに、あやしくて、夜明けて奥の方をよくよく見れば、この地蔵納めて置き奉りたりけるを思ひ出して、見出したりけり。「これが見え給ふにこそ」と驚き思ひて、急ぎ開眼し奉りけりとなむ。

（『宇治拾遺物語』によし）

【語注】

注1 袖くらべ…売り手と買い手が袖の中に手を入れて握り合って値段を決めた市に由来する地名。

注2 下種…身分の低い者。

注3 櫃…ふたが上に開く大型の箱。

注4 天帝釈…仏教の守護神。

問一 波線部④「地蔵会（ちざうかい）」、⑤「参らむ」、⑥「給ふ」を現代かなづかに改めて、すべてひらがなで答えなさい。

問二 傍線部①「世の営みに紛れて」、③「構へて参り給へ」、④「うち驚きて」の現代語訳として最も適当なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

①「世の営みに紛れて」

③「構へて参り給へ」

④「うち驚きて」

ア 戦に疲れ果てて

ア 必ずおいでくださいな

ア 心をうたれて

イ 暮らしの中で見失って

イ 心しておいでくださいな

イ たいへん気をもんで

ウ 暗闇の中に紛れて

ウ 服装を整えておいでくださいな

ウ ふと気が付いて

エ 世界情勢に流されて

エ かしこまっておいでくださいな

エ ふと目が覚めて

問三 二重傍線部A「納め置き」、B「思へ」、C「いへ」、D「思ひ」、E「思ひ出し」の主語は、ア「下種」、イ「地蔵」のどちらですか。それぞれ記号で答えなさい。

問四 傍線部②「え参るまじく」とは「参れそうにもなくて」と訳しますが、参ることができない理由として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 何年も奥の部屋に置かれたままで、歩くことができないから。  
イ 何年も忘れられていたため、開眼供養をしておらず目が見えないから。  
ウ 何年も忘れられていたため、呼ばれても自分だと気が付かなかったから。  
エ 何年も奥の部屋に置かれていたため、その場所への行き方が分からなかったから。

問五 傍線部⑤「急ぎ開眼し奉りけりとなむ」と、下種が思った理由として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 地蔵菩薩の開眼供養をしていなくて、夢にまで地蔵が現れたから。  
イ 長い間、地蔵菩薩の開眼供養をしていないことを地蔵に激怒されたから。  
ウ 地蔵菩薩の開眼供養を思い出し、地蔵菩薩を完成させようと思ったから。  
エ 地蔵菩薩の開眼供養をすることで、自分が助かると思ったから。

問六 「宇治拾遺物語」は鎌倉時代の作品ですが、これと同じ時代の作品を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 「徒然草」      イ 「奥の細道」      ウ 「万葉集」      エ 「枕草子」

四 次の①～⑩の四字熟語の意味として適当なものをそれぞれ選び、記号で答えなさい。(同じ記号は一度しか使えません。)

- ① 一日千秋      ② 我田引水      ③ 縦横無尽      ④ 一石二鳥      ⑤ 一期一会  
⑥ 右往左往      ⑦ 空前絶後      ⑧ 本末転倒      ⑨ 四苦八苦      ⑩ 針小棒大

- ア 一つのことをして、同時に二つの利益を得ること。      カ 一生に一度の出会いのこと。  
イ あっちへ行ったり、こっちへ来たりすること。      キ 少しの事柄を広げて表現すること。  
ウ 思う存分に行うこと。      ク 今までも例がなく、極めて珍しいこと。  
エ 重要なところとそうでないところを、逆に扱ってしまうこと。      ケ 待ち遠しく思うこと。  
オ とても大変な思いをすること。      コ 物事を自分の都合の良いように言ったり、進めたりすること。

五 次の①～⑩のことわざの示す意味として適当なものをそれぞれ選び、記号で答えなさい。(同じ記号は一度しか使えません。)

- ① 石橋をたたいて渡る      ② のれんに腕押し      ③ 舌を巻く      ④ 情けは人のためならず      ⑤ 弘法にも筆の誤り  
⑥ 井の中の蛙      ⑦ 石の上にも三年      ⑧ 五十歩百歩      ⑨ 花より団子      ⑩ 月とすっぽん




- ア いたく感心すること。  
イ どんな名人でも、失敗することがあるということ。  
ウ 自分の狭い知識や考えに閉じこもって、広い世界を知らずにいる人のこと。  
エ 見て美しいものより、実際に役立つものの方が良いこと。  
オ 何をするにも我慢や辛抱が大切だということ。  
カ 違いがありすぎて、比べ物にならないこと。  
キ 相手に少しも手こたえや反応がないこと。  
ク 非常に用心深いこと。  
ケ 人に親切にすれば、やがて自分にも良い報いが巡ってくること。  
コ わずかな違いがあっても、本質的には同じであること。

解答用紙

合計得点

--


	→
	→

四

五